

- 1 単元名 登場人物のへんかに気をつけて読み、好きな場面について話し合おう
「まいごのかぎ」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。

3 教材のとらえ

本教材は、主人公「りいこ」がまいごになっているかぎを回すことで、次々と不思議な出来事に出会うファンタジー作品である。本文には、登場人物の気持ちを読み取ることのできる表現が多くある。例えば、「びっくりした」「思わずさけぶ」「悲鳴をあげる」「ひっくり返りそうになる」というように、驚いている気持ちでもさまざまな表し方をしている。実際に声に出してみたり、行動に移したりするなどして、気持ちを読み取ることができるようになりたい。また、りいこの気持ちを心情曲線で表すことで、細かな気持ちの変化に気付くことができるようにしたい。

本時の「りいこのやったことはよけいなことか」という学習問題について、前時に「今までりいこがやったこと」を確認しておく。また、全員が話合いのスタートラインに立てるよう、考えをまとめる時間を十分確保する。

本時では、多様な考えを互いに伝え合い、りいこは自分のやったことが「よけいなことではないかもしれない」と前向きに考え直せたから、気持ちが明るくなったという気付きを得ることができるようになりたい。しかし、考えがまとまらなくても、話合いを通して、明確な根拠を持ち、自分の考えを深めていくことを目指したい。



4 本時の指導案

本時の目標

叙述を基に登場人物の気持ちを考え、話合いの中でりいこの気持ちの変化に気付くことができる。

本時の学習(7/8)

学習活動	○教師の支援
1. 前時の内容を想起し、学習問題を確認する。	
りいこのやったことはよけいなことだったのかな？	
2. りいこのやったことはよけいなことだったのかについて話し合う。 よけいなこと ・今までかぎを回して、いろんなことをおこしてしまったから。 ・かぎが回ったとき、がっかりした気持ちがあったから。 ・わくわくした自分がいやになっていたから。 ・「わたしのせいだ。」と自分を責めているから。 ・かぎをぎゅっとにぎるほど、こわいと思っているから。 よけいなことではない ・「さくらの木やベンチも楽しかった」、「みんなと遊びたかったんだ」と気づいたから。 ・図工の時間にけしてしまった、うさぎがうれしそうにこちらに手をふっていたから。 ・バスがまんぞくしているから、りいこもまんぞくしている。 ・かぎが消えてなくなったから、不安な気持ちもきえたかもしれない。 ・最後まで手をふりつづけていたから。 3. 本時の学習を振り返る。 話合いを通して考えたことをノートに書く。	○前時までの内容を教室に掲示し、いつでも想起できるようにする。必要によってその掲示に注目することができるようにする。 ○自分の考えを確認する時間を作る。 ○ネーム磁石を使用し、立場(考え)をはっきりさせる。 ○りいこのやったことが「よけいなこと」か「よけいなことではない」かで板書を分ける。 【思考・判断・表現】 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、表現することができる。 [発言、ノートの記述] ○話合いをして分かったことや、自分の考え、自分の考えで変わったところをノートに書けるよう、声かけをする。